

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

### 1 事務事業に関する基本情報

				平成	29	年度
事業番号	76		事業名	国際交流事業 韓国		
担当課	企画課		担当係	企画振興係		
総合計画に最も関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	4	連携・交流の推進	事業区分	□新規	
	主な事業	国際交流の促進			■継続	
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	■八頭町	
	項	1	総務管理費		□その他	
	目	15	国際交流事業費	計画期間	開始	—
	事業	76	国際交流事業 韓国		終了	—

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 八頭町民		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 国際的視野をもったまちづくり・人づくりの推進及び外国に向けた八頭町の情報発信の促進		
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 友好交流協定を締結している韓国横城郡との日韓子ども交流事業、江原道民大会への芸術団派遣、物産展へのブース出展等		
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 日韓子ども交流として学校訪問、合宿、農村体験等を通して、国際的視野の育成を図る。 横城郡で開催される江原道体育大会の開会式で披露する伝統芸能団派遣し文化交流を促進する。 両地域の特産展等に出品し、特産品のPRを実施する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 友好交流の促進、国際理解の更なる醸成、両地域の発展		
根拠法令等	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし 法令等名→		

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	回	日韓子ども交流事業
	B	回	民間相互交流
	C	回	ブース出展等のイベント交流
	D		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	人	日韓子ども交流事業参加者数
	B	人	民間相互交流参加者数
	C	人	ブース出展等のイベント交流参加者数
	D		

### 4 コスト

区分	単位	26年度	27年度	28年度		29年度		30年度
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	2	2	2	2	2	2	2
	B	1	2	2	1	2	1	2
	C	1	2	2	1	2	1	2
	D							
成果指標	A	18	33	24	24	24	27	24
	B		48	40	10	20	12	20
	C	3	6	6	3	6	3	6
	D							
トータルコスト	千円	11,343	14,367	12,747	11,227	13,628	11,155	13,628
担当職員数	人	1.0	1.0	1.0	1.00	1.0	1.00	1.0
職員人件費	千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費	千円	3,343	6,367	4,747	3,227	5,628	3,155	5,628
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円						
	県支出金(交付金・補助金)	千円						
	地方債(借入金)	千円						
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	350	58	120	50		30
	一般財源(単町費)	千円	2,993	6,309	4,627	3,177	5,628	3,125

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 29 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) 韓国横城郡との友好交流協定に基づき、子ども交流をはじめ町民・団体同士による様々な交流事業を実施し、国際的な視野を持った人材の育成、国際理解を深める交流事業を推進するもの。 成果(具体的に) 国際的な視野を持ったまちづくり・人づくりの推進、八頭町の情報発信を含め、相互の理解を深めることができた。
----------------	---

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	国際的な視野を持った人材の育成や両国相互の理解を深めるためにも、様々な交流を促進させる必要がある。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	町が実施することによって、交流人口の増加と相互理解を深めるきっかけづくりを行うことができ、民間交流の促進へと展開することができる。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	民間交流においては、交流の輪をより多くの町民に広げるためにも、年度ごとに交流事業の内容や分野について選択や特化を行うなど、限られた予算の中で事業を実施している。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	国際的な事情などにより他の自治体が交流中断などの判断をする中であっても、本町と韓国横城郡との交流事業が中止となったことは一度もない。それだけ相互の理解が進んでいるものと考えており、今後も親密な交流が継続されるものと期待している。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	20	20	①成果が上がっている	子ども交流では毎年12名程度の児童が参加しており、これを継続していくことで児童の家族を含む交流人口の拡大、国際的視野を持った人材の育成に寄与している。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79 評価点による判定  2	韓国横城郡との友好交流協定に基づき、子ども交流をはじめ町民・団体同士による交流事業を実施し、国際的視野を持った人材の育成、国際理解を深める交流事業を推進することができた。今後もこの取組を継続していくことで、相互の理解がさらに深まることが期待される。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	韓国横城郡(フェンソングン)との交流は旧八東町時代の平成6年から開始され、平成9年に友好交流協定を締結、八頭町合併後においても平成17年に改めて友好交流協定を締結し、これまで子ども交流や民間団体の相互交流などの事業を行ってきた。本事業の主たる目的は、両地域・両国間の理念・文化等の相互理解を深め、韓国と日本国の良好な関係の保持に寄与すること、また、国際感覚あふれる人材を育成すること等であると考え。今後は、子ども交流や民間団体交流を中心とした市民レベルでの人的交流を継続していくことになると思われるが、事業展開にあたっては両地域の民間同士の自主的な交流へつなげ、国際交流の輪がさらに広がっていくような取組を進めていただきたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 より多くの町民に関心や関わりをもっていただくため、幅広い分野に裾野を広げた交流が必要であると考えている。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか ・日韓子ども交流を交流事業の根幹と位置付け、参加児童や家族の国際理解を深める機会を設けることにより、国際的視野を持った人材の育成に努める。 ・民間交流としては、文化・芸能・スポーツ等各種団体の派遣等裾野を広げた交流を展開する。